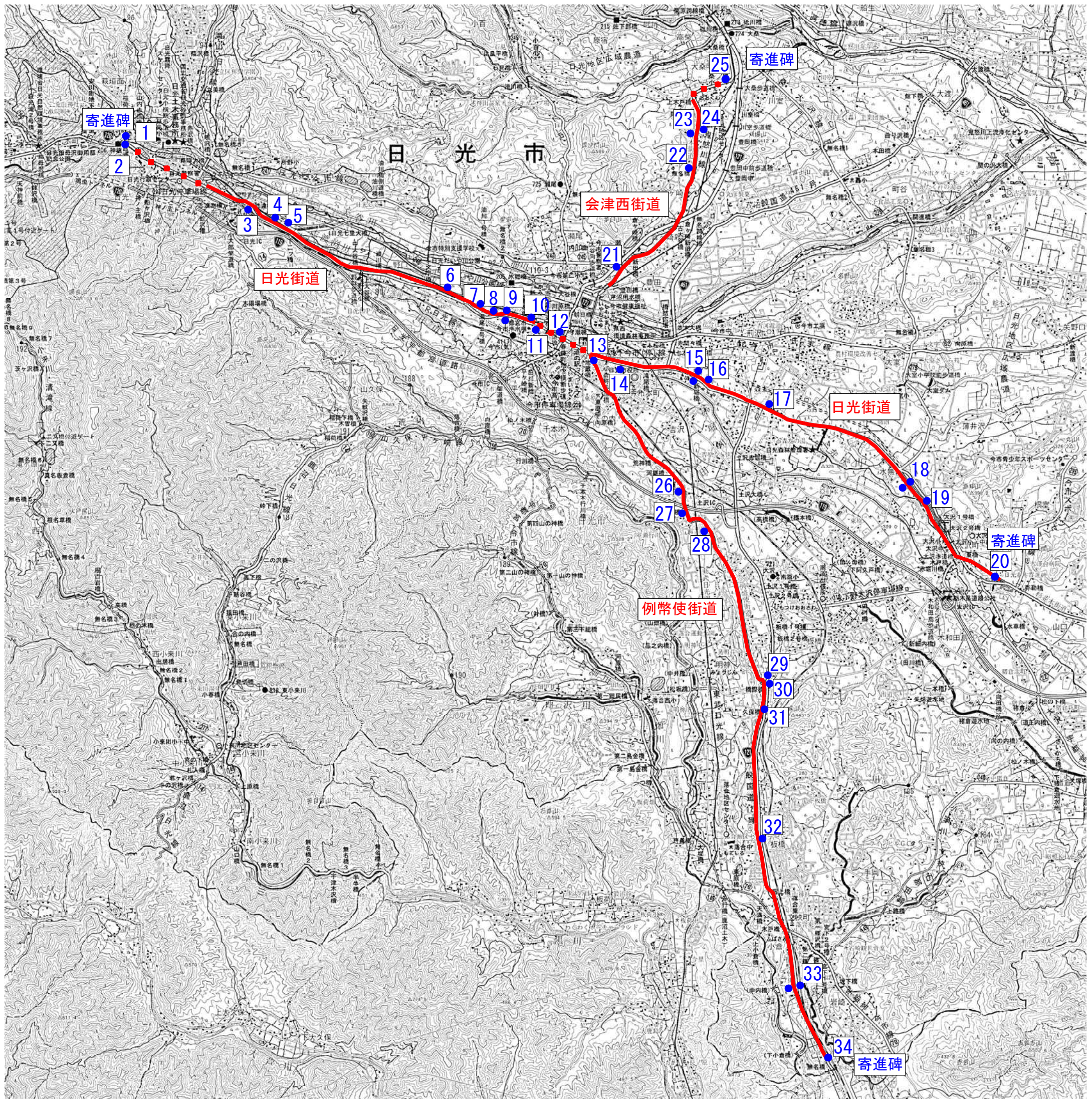


日光杉並木街道 名所・名物杉ガイド

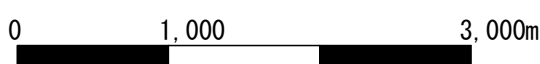
No.	名称	街道	位置	概要	備考	案内板
1	並木寄進碑	日光街道	山内	慶安元(1648)年、徳川譜代の家臣松平正綱、正信父子が、日光東照宮に寄進した杉並木の植え付けを終えて記念に建てた石碑で、日光神橋付近(山内)及び三街道の大沢・大桑・小倉の4ヶ所に建てられた。日光神領の境界だったので、「境石」とも呼ばれていた。		
2	神橋	日光街道	山内	二荒山(男体山)をご神体としてまつる二荒山神社の建造物で、日光山内の入り口にかかると、大谷川の急流に行く手を阻まれ神仏に加護を求めた際、深沙王(じんじゃおう)が現れ2匹の蛇を放ち、その背から山菅(やますげ)が生えて橋になったという伝説を持つ神聖な橋。別名、山菅橋や山菅の蛇橋(じゃばし)とも呼ばれている。日本三大奇橋の1つ。		
3	異人石	日光街道	宝殿	明治時代にある外国人が、杉並木鑑賞用としてつくられたといわれる、石製の椅子。別名「異人さんの腰掛け石」。		
4	銀杏杉	日光街道	七里	露出させた巨大な根の形状が、銀杏の葉に似ていることから銀杏杉と呼ばれている。	L0235	
5	並木太郎	日光街道	七里	杉並木の中で一番大きな杉。日光市七里に所在する。その高さは38メートルにも達する。	L0337	○
6	砲弾打ち込み杉	日光街道	上瀨川	慶応4(1868)年の戊辰戦争のとき、板垣退助の率いる官軍が日光山にたてこもる幕府軍を攻撃した際、大砲の弾が当たったという杉。	L0848	○
7	七本杉跡	日光街道	上瀨川	7本の根幹が密着して1株になったものであるが、昭和43(1968)年までにいずれも切り倒されてしまった。	L1073とL1080の間	
8	芋の木杉	日光街道	上瀨川	周囲6.8mの杉の幹にタカノツメ(別名イモノキ)が寄生していた。現在イモノキは撤去されている。	L1084	
9	一里塚	日光街道	瀨川	日本橋から34里目の一里塚。両側ともに残っている。		○
10	高靄神社	日光街道	瀨川	瀨川村氏神・高靄大明神。 瀨川村の鎮守として天正年中(1573-1592)の勧請。		
11	瀧尾神社	日光街道	春日町	勝道上人が神護景雲年間(767-770)に、日光瀧尾神社を創立した際、同時に同じ神靈を祀ったのが起源と伝えられる。今市の鎮守。		
12	浄泉寺	日光街道	春日町	浄土宗。如来寺の末寺。本尊は薬師如来。日光月光菩薩と十二神将も安置していたといわれる。元龜3(1572)年の創立で現在は廃寺。		
13	追分地藏尊	日光街道と例幣使街道の合流点	小倉町	高さ2mの石地藏で、伝説によると弘法大師が日光の含満ヶ淵に建てたもので、大洪水で流されて大谷川の砂原に埋まっていたものを、近くの石工がただの大石と思い楔を打ち込んだところ赤い血がにじみ出たと言われる。今もその楔の跡という窪みが残っている。		
14	戊辰戦争無名戦士の墓	日光街道	小倉町	慶応4(1868)年の戊辰戦争で、地元徴募の猟師隊を含む約100人が戦死した。地元の人々は散乱していた20数人の遺体をここに葬り、供養を続けている。		
15	一里塚 並木ホテル	日光街道	七本桜	日本橋から33里目の一里塚。東側の塚には根元に大きな空洞を持つ杉がある。空洞の最大内径は3.5mもあり、大人4人が入れるほどである。内部は炭化しており、落雷や焚火によるものか。	L5985	○

No.	名称	街道	位置	概要	備考	案内板
16	桜杉	日光街道	七本桜	根元周囲3.5mの杉の割れ目に山桜の種子が芽を吹き、杉の幹内を通過して地面に根を下ろした。山桜は幹周1.1mに成長し、春には花を咲かせる。	R6043	○
17	来迎寺	日光街道	森友	盛朝山来迎寺。浄土宗。		
18	一里塚	日光街道	水無	日本橋から32里目の一里塚。両側ともに残っている。	R6916・R6919の間、 L7208・L7214の間	○
19	御殿跡	日光街道	大沢	江戸時代、將軍の日光社参の際の休憩所や装束衣帯所として造営された。現在は旧大沢・大桑線沿いに御殿跡の石碑が建てられている。		
20	並木寄進碑	日光街道	大沢	慶安元(1648)年、徳川譜代の家臣松平正綱、正信父子が、日光東照宮に寄進した杉並木の植え付けを終えて記念に建てた石碑で、日光神橋付近(山内)及び三街道の大沢・大桑・小倉の4ヶ所に建てられた。日光神領の境界だったので、「境石」とも呼ばれていた。		○
21	雷電神社	会津西街道	大谷向	並木敷内に石祠二基が祀られている。		
22	二重並木	会津西街道	倉ヶ崎	街道の西側だけが9～15mほど幅をもって植林されている。江戸時代に東照宮を参拝する大名同士のすれ違いための退避場所や、休憩場所として設けられたのではという説がある。	L8077～L8083 R8159～R8170	○
23	からかさ杉	会津西街道	大桑	杉の梢の方だけが奇妙に枝を張った変木で、傘を広げたようになっているので「からかさ杉」と呼ばれている。	L8332	○
24	一里塚	会津西街道	大桑	唐申塔と街道を挟んで反対側、大桑方面に向かって右側に位置する。		
25	並木寄進碑	会津西街道	大桑	慶安元(1648)年、徳川譜代の家臣松平正綱、正信父子が、日光東照宮に寄進した杉並木の植え付けを終えて記念に建てた石碑で、日光神橋付近(山内)及び三街道の大沢・大桑・小倉の4ヶ所に建てられた。日光神領の境界だったので、「境石」とも呼ばれていた。 ただし、現在の大桑の寄進碑は当初のものではなく、享保8(1723)年の五十里洪水で流失後再建され、その後の洪水による再度の流失後、元治元(1864)年に再々建されたもので、場所も当初の石塔島から現在地に移動している。	本編33ページ(2)参照	○
26	一里塚	例幣使街道	室瀬	日本橋から32里目の一里塚。西側のみ現存。		○
27	十石坂	例幣使街道	室瀬	元和4(1618)年、黒田筑前守長政が東照宮に石の大鳥居を奉納した際、この坂を登るのに難渋し、人夫たちに食べさせた米が十石に及んだといわれている。		
28	地震坂	例幣使街道	明神	昭和24(1949)年の今市地震の際に、並木杉ごと地滑りをおこし、現在も痕跡をとどめていることからこの名がある。地すべり坂とも呼ばれる。		○
29	福生寺	例幣使街道	板橋	真言宗、明王山法善院と号する。本尊は木彫り十一面千手観世音立像。万寿元(1024)年、権大僧都資憲法印の建立。歴代板橋城主、遊城坊綱清、板橋親棟、松平一生、松平成重らの位牌を祀っている。鹿沼市上村木町の高野山真言宗宝蔵寺の下寺で現在は無住。境内に東照宮造営副奉行本田正盛の墓がある。		

No.	名称	街道	位置	概要	備考	案内板
30	栖克神社	例幣使街道	板橋	住吉明神。永正元(1504)年日光山の遊城坊綱清が板橋城を築城するとともに、城の鎮守として建立。		
31	一里塚	例幣使街道	板橋	日本橋から30里目の一里塚。東側のみ現存。塚の右側に小さな鞆堂があり、中に弥勒菩薩が祀ってある。		○
32	二荒神社	例幣使街道	文挾	星宮、大杉明神、天王、太神宮、愛宕、淡島、三光、稻荷神社などが祀られている。		
33	一里塚	例幣使街道	小倉	日本橋から29里目の一里塚。両側ともあり。		○
34	並木寄進碑	例幣使街道	小倉	慶安元(1648)年、徳川譜代の家臣松平正綱、正信父子が、日光東照宮に寄進した杉並木の植え付けを終えて記念に建てた石碑で、日光神橋付近(山内)及び三街道の大沢・大桑・小倉の4ヶ所に建てられた。日光神領の境界だったので、「境石」とも呼ばれていた。		○



S= 1 : 50,000



日光杉並木街道 名所・名物杉位置図

No.	名称	街道	位置	案内板
1	並木寄進碑	日光街道	山内	—
				
概要	慶安元(1648)年、徳川譜代の家臣松平正綱、正信父子が、日光東照宮に寄進した杉並木の植え付けを終えて記念に建てた石碑で、日光神橋付近(山内)及び三街道の大沢・大桑・小倉の4ヶ所に建てられた。日光神領の境界だったので、「境石」とも呼ばれていた。			
備考				

No.	名称	街道	位置	案内板
2	神橋	日光街道	山内	—
				
概要	日光山内の入り口にかかる木造朱塗りの美しい橋。奈良時代の末に勝道上人が日光山を開くとき、大谷川の急流に行く手を阻まれ神仏に加護を求めた際、深沙王(じんじゃおう)が現れ2匹の蛇を放ち、その背から山菅(やますげ)が生えて橋になったという伝説を持つ神聖な橋。別名、山菅橋や山菅の蛇橋(じゃばし)とも呼ばれている。日本三大奇橋の1つ。			
備考				


No.	名称	街道	位置	案内板
3	異人石	日光街道	宝殿	—
				
概要	明治時代にある外国人が、杉並木鑑賞用としてつくらせたといわれる、石製の椅子。別名「異人さんの腰掛け石」。			
備考				

No.	名称	街道	位置	案内板
4	銀杏杉	日光街道	七里	—
				
概要	露出させた巨大な根の形状が、銀杏の葉に似ていることから銀杏杉と呼ばれている。			
備考	L0235			

No.	名称	街道	位置	案内板
5	並木太郎	日光街道	七里	○
				
概要	杉並木の中で一番大きな杉。日光市七里に所在する。その高さは38メートルにも達する。			
備考	L0337			


No.	名称	街道	位置	案内板
6	砲弾打ち込み杉	日光街道	上瀬川	○
				
概要	慶応4(1868)年の戊辰戦争のとき、板垣退助の率いる官軍が日光山にたてこもる幕府軍を攻撃した際、大砲の弾が当たったという杉。			
備考	L0848 杉の周辺にベンチが設置されており観賞場所として整備されてる。			

No.	名称	街道	位置	案内板
7	七本杉跡	日光街道	上瀬川	—
				
概要	7本の根幹が密着して1株になったものであるが、昭和43(1968)年までにいずれも切り倒されてしまった。			
備考	L1073とL1080の間			


No.	名称	街道	位置	案内板
8	芋の木杉	日光街道	上瀬川	—
				
概要	周囲6.8mの杉の幹にタカノツメ(別名イモノキ)が寄生していた。現在イモノキは撤去されている。			
備考	L1084			

No.	名称	街道	位置	案内板
9	一里塚	日光街道	瀬川	○
				
概要	日本橋から34里目の一里塚。両側ともに残っている。			
備考	R1144・R1145の間、L1115・L1116・L1117の位置			

No.	名称	街道	位置	案内板
10	高竈神社	日光街道	瀬川	—
				
概要	瀬川村氏神・高竈大明神。 瀬川村の鎮守として天正年中(1573-1592)の勧請。			
備考				

No.	名称	街道	位置	案内板
11	瀧尾神社	日光街道	春日町	—
				
概要	勝道上人が神護景雲年間(767-770)に、日光瀧尾神社を創立した際、同時に同じ神霊を祀ったのが起源と伝えられる。今市の鎮守。			
備考				

No.	名称	街道	位置	案内板
12	浄泉寺	日光街道	春日町	—
				
概要	浄土宗。如来寺の末寺。本尊は薬師如来。日光月光菩薩と十二神将も安置していたといわれる。元亀3(1572)年の創立で現在は廃寺。			
備考				

No.	名称	街道	位置	案内板
13	追分地藏尊	日光街道と例幣使街道の合流点	小倉町	—
				
概要	高さ2mの石地藏で、伝説によると弘法大師が日光の含満ヶ淵に建てたもので、大洪水で流されて大谷川の砂原に埋まっていたものを、近くの石工がただの大石と思い楔を打ち込んだところ赤い血がにじみ出たと言われる。今もその楔の跡という窪みが残っている。			
備考				

No.	名称	街道	位置	案内板
14	戊辰戦争無名戦士の墓	日光街道	小倉町	—
				
概要	慶応4(1868)年の戊辰戦争で、地元徴募の猟師隊を含む約100人が戦死した。地元の人々は散乱していた20数人の遺体をここに葬り、供養を続けている。			
備考				